

文化庁長官 河合 隼雄 氏「基調講演」



(プロフィール) 文化庁長官。臨床心理学者、京都大学名誉教授。
1928年生まれ。兵庫県出身。1952年京都大学理学部卒業後、アメリカ留学を経て、1967年京都大学教育学博士。その後、スイスのユング研究所で日本人として初めてユング派精神分析家の資格を取得し、日本におけるユング分析心理学の理解と実践に貢献。故小渕首相の私的諮問機関「21世紀の日本の構想」懇談会の座長、教育改革国民会議委員、文部科学省顧問を務めるなど、日本の文化、教育に幅広く貢献している。1995年紫綬褒章受章、2000年文化功労者顕彰。日本心理臨床学会理事長。2002年より現職。2003年3月より「関西元気文化圏構想」を提唱。「『関西』から、日本の社会を『文化力』で元気にしていこう」を合言葉に、関西の経済団体やマスコミ関係者、地方公共団体との協働により、関西文化圏の活性化の推進に取り組む。

進めよう！文化力で元気なまちづくり

地域づくり発表会にお招きを受け、喜んでやって参りました。発表の中には、私もよく知っているものもあります。発表者の皆様方が、ユニークで素晴らしい他の発表をお聞きになり、それをヒントに「うちでもやろう」と、地域づくりがさらに広がっていくことに繋がるかと思えます。そういう意味で、本当に意義のある発表会だと思えます。

多様な主体の参画により「関西元気文化圏」を推進

私が、文化庁長官となったときに、「文化で日本中を元気にしよう」ということを申し上げました。経済だけで国を考えると、どうしても行き詰まります。文化力と経済力の両方が相まって国が栄えると考えるべきだと思ったのです。文化力が活力を生むということでは、東京一極集中も問題と思えます。各地の多様な文化があってこそ、日本全体の元気に繋がります。文化の多極性こそいちばん健康な姿なのです。各地のいろいろなものを結集して文化を盛んにすれば、自然に経済効果が出てきます。そういう意味でも東京一極集中を何とかやめましょうと話をしているうちに「よし関西もいっしょうやろう」という歓迎もあり「関西元気文化圏」を唱えました。非常にありがたいことに、経済界の方もマスコミの方も大学の方などいろんな方が集まり一緒になってやろうという気運が盛り上がったのです。また、これまでは役所の壁が厚かったわけですが、この取組においては、文化庁のみならず国土交通省、経済産業省などいろいろな省庁の方まで一緒になってやらせて頂くことになり非常に有り難く思っています。こうした取組がスムーズにいけば、ますます文化が盛んになり経済的な効果にも結びついてくる、これが文化の良いところであり、今、その道筋にあると思えます。



地域に根ざしたメセナ活動の広がり

いろいろな会社の方がお金を出されて文化的なことを行う「企業メセナ」は、経済的に富んでいるときはお金が集まり成功しましたが、バブルがはじけると同時にお金が集まらなくなりました。しかし、実は今、また上ってきています。「ちょっと儲け過ぎているからその分は文化に使おう」という考えから、メセナに対する企業姿勢として「余ったお金ではなく小口でも予算として文化に支出することが地域を潤す。それが会社への繁栄にもつながる」というふうに変わってきたのです。これが、日本中ますます広がって行くのではないかと思います。

観光を深化させる文化の架け橋

外国との間でも経済交流のみにとどまらずに、文化交流を盛んにすれば経済効果も生まれます。日本とヨーロッパとか日本とオーストラリアに橋をかけたらと私は冗談を言っていたのですが、実は「文化の橋」は、どんなに遠くても架けられるものです。日本から行くだけでなく、外国からも日本に来てもらいお互いが交流することで、経済的にも変わってくるということです。私は、前から「文化観光」と云ったり「観光を深化させる」と云っています。深化とは、進化論の「進める」ではなく「観光を深める」ことです。つまり、例えば大阪城の観光案内一つをとっても、石垣の石材の来歴、運搬方法や秀吉との関係、そのころの日本の土木技術のすごさがわかるなど、文化的なことに触れることが観光に深みを増すことになるのです。外国の方が観光に京都に来て「同じような社寺ばかりをなんで見せられるのか」と疑問を云われるのですが、しかし「このお寺にはこの様な歴史や云われがある」と説明してあげると「なるほど」と関心されるのです。外国の方からの質問には「うん、なるほど」という答えがパッと云えることが大事です。

「新しい公」で始まる地域づくり

21世紀の日本はどうあるべきかを考える「二十一世紀日本の構想懇談会」の座長を務めていた時に、「日本人はもう少し個人を確立するということを考えなければならない」と申し上げました。「私はこう思います、これはこうなんです」と言えるような、その確立が大事なのです。懇談会では誰もが一致しました。ところが、「個が確立する」を変な意味で捉えると、みんな利己主義になって、自分の好きなことをやるということになってしまう。これではおかしい。だから、「個の確立と公」のことを考える必要がある。その時に「個の確立と新しい公の創出」が大事であることを一つの主題に揚げました。上から押しつける公ではなく、個人の発想を生かし下から盛り上がってくる「新しい公」が大事だと答申に書いたのです。そういうことでは、本日の地域づくり発表会の事例は「新しい公の創出」の見本になるのではないかと思います。個人、個人が集まって公に繋がる。しかも、これはまちづくり。まちづくりどころか、それは日本中に広がる、あるいは外国まで・・・私は、こういうのを見て大変嬉しく思っています。

地域づくりは世代間の心の橋渡し

私は、「日本中を文化で元気にしよう」と唱えていることから、日本中をあちこちまわり文化芸術懇談会というのを29回行いました。本当に感心するのは、日本文化を仲介させるとでみんな実に面白いことを行っておられることです。そこで特に印象的であったのは、世代間のコミュニケーションが大変良いことです。「まちおこし」などに老人から子供まで世代の違う者が加わっていると、普段より老人と若者の意思が通い合い、ワアワア話をした後で、気が向いたら喫茶店まで行ってコーヒーを飲みながら話し込んだりします。地域の結びつきだけでなく、心の結びつき、世代を超えた人間の結びつきが広がっていけば、まちの活性化だけでなく、最近起こっているような犯罪の防止にも役立つわけです。そういう点でもこのような地域づくりは大変大事なことです。

地域づくりから新たな「心の絆」が生まれる

商店街を復活させようという活動が全国各地で行われています。「もうあかん、儲からん」といって店も潰れ、出ていかれます。商店街に空き家がどんどん増えていくわけですから、商店街の魅力がなくなるのです。そういった場所で文化の事業を一つやると三つも四つも相乗効果が生まれることが多いのです。スーパーと違って商店街のまちづくりは、会話が生まれるところが魅力です。子供を守ること、心のつながり、親子関係の復活、家庭がうまくいくなど、一石何鳥にもなることを、皆さん方はまちづくり事業として携わられてみてご存知だろうと思います。

また、商店街の復活で興味がわいたのは、大学生が「やってみたい」と大勢寄って来られることです。大学生が来ると大学の先生までボランティア活動に参加するようになるのです。そして、学生と先生までも一緒になってみんな生き生きとして、ワイワイと

復興計画を考えるのです。この様な姿を見て、非常に嬉しく思いました。皆さんも是非
こういうときに、大学に声をかけて頂きたいと思います。学生も大変喜ぶと思います。

地域づくりは人づくり

民間のパワーが行政と結びつき、行政と民間が手を組んで地域づくりを進める良い
事例がどんどん増えてきました。大学が入って来れば、経済界も入って来るなど、い
ろいろなものが入って来ています。好きなことを行っているときはみんな生き生きし
ています。人づくりが地域づくりの原点でないかと思うのです。皆様方も日々の活動
を通じて「人づくり」を行っていると考えて頂いて、まちづくり、地域づくりを頑張
って頂きたいと思います。